

水産

内水面水産試験場 生産技術部
平成27年度採用

職歴

H27～ 水産事務所 漁業振興課

H30～ 水産研究所（※） 種苗研究部

※H30組織改編により「水産資源研究所」に名称変更

R3～ 農林水産部 水産課

R4～ 内水面水産試験場 生産技術部



私は
ふくしまの水環境
が好き。

わたしを表すKEYWORD

#魚好き

魚好きは魚好きでも、食べる方ではなく見る方。泳ぐときや餌を食べるとき、きっと何かを思案しているような仕草が興味深いです。（食べる方では煮魚・焼魚が好き。骨ごといければなお良し。）

#水場好き

小さいころは、容器に水を入れて渡すと、それで2～3時間は遊んでいたそう。長じてからもとりあえず、水面はのぞき込むのが常です。

#犬派

#船酔いする

#料理は火力

ふくしま水産業発展のために

近年、気候変動等による水温上昇や大規模な水害、生物の分布の変化、飼料費等の高騰等々、水産業を取り巻く環境は大きく変動しており、水産業の現場では多様な問題が発生しています。

水産の仕事は、海や川の漁業者や漁協組合員、養殖業者の方々と接する機会が多く、今現場で困っていることや県にやってもらいたいことなど、生の声を聞くことができます。こちらが示した解決案が役に立ったかなども直接知ることができ、感謝いただけたり、改良案を話し合ったりできるのでとても励みになります。



↑ 魚の出荷準備をする様子

県職員を目指した理由

小さいころから水や魚を見るのが好きで、学校も水産系へ進みました。学校では西日本で盛んに行われている海産魚の養殖を中心に学びましたが、震災で漁業を取り巻く環境が大きく変わった福島県でできることがあるのではと考え、県職員を志望しました。

とある一日のスケジュール

- 8:30 始業
- 9:00 飼育池見回り、水質測定、餌やり
- 10:00 飼育魚の測定、死亡魚の解剖
- 11:00 漁協関係者との打合せ
- 12:00 昼休み
- 13:00 飼育池見回り、用水管理
- 14:00 測定データの整理、必要資材・餌の確認発注
- 16:00 飼育池の掃除
- 17:15 終業

自身の職種の魅力・面白いところ



↑ 飼育魚へ餌やりをする様子

水産に関わる業務では、海や川はもちろん、管理された施設内であっても、天候や気温といった自然の力を強く受け、しかも結果が一定ではありません。

そこからデータを組み合わせて、「どうしてそうなったか」について、いかに矛盾のない説明を見つけられるか取り組むことに、面白さがあると思います。

今までの県職員の業務の中で、印象に残った経験

ひとくちに養殖業者といっても、扱う魚の種類や目的（食用、河川放流用、採卵用など）によって、必要とする餌や設備、飼育期間や出荷する際のサイズが異なってきます。

そういった違いが判らないと、相手の仕事の妨げになりかねないので、早いうちに現場に足を運び、見て、聞く機会を本当に大事にするべきと感じました。



↑ 飼育魚を測定する様子

受験者への メッセージ

水産業には、魚介類や海藻類を獲る、育てる、加工・流通させるなど様々な分野があり、支援のために求められる知識も多様です。そのため、水産系はもちろん、水産系以外の分野出身の職員も多く活躍しています。分野関係なく、水産業支援に力を貸していただければ幸いです。